



# 復元棚田を活用した中山間集落の活性化

山間農業地域

いちやま とうし  
市山環境保全会 (島根県江津市)

- 本地域は、島根県西部の江津市、江の川上流部の山間に位置し、5自治会が1つの組織として活動を実施。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地域内の水路の草刈り等を非農業者を含め地域ぐるみで実施し、棚田も復元。
- 生物調査や古代米栽培などの子供たちの体験学習も実施し、地域の環境保全への意識が向上するとともに、ふゆみずたんぼなど環境に優しい農業を実践する農家が現れるなど新たな農業が展開。

## 【地区概要】

- ・取組面積63ha (田53ha、畑10ha)
- ・資源量 開水路10.1km、農道7.5km、ため池4箇所
- ・主な構成員  
自治会、婦人会、青年会、消防団等
- ・交付金 約4百万円(H29)  
 農地維持支払  
 資源向上支払(共同、長寿命化)

## 活動開始前の状況や課題

- ほ場整備から約40年が経過し、農業用施設が老朽化するとともに、農業者の高齢化や後継者不足により、農業水利施設等の維持管理の負担が増大。
- イノシシ、猿などの鳥獣による作物被害に加え、農地・畦畔法面も荒らされる被害も年々増加。生活環境にも影響。
- このため、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策を活用し、地域ぐるみで農地・水路等の保全管理を開始。



市山の施設補修箇所

## 取組内容

- 農地・水路等の保全管理に加え、20年以上放置された棚田9枚とため池を2年がかりで「やぶさめの棚田」、「やぶさめのため池」※として復元。
- 生物調査や棚田を活用した古代米栽培など子どもたちの体験学習を実施し、地域の環境保全への意識が向上。



復旧した「やぶさめの棚田」現在の様子

※ ため池百選(平成22年3月25日選定)

## 取組の効果

- 小学5年生が体験学習で栽培した古代米を町内の5公民館のイベントに使用。地域活動の輪が集落から町内に拡大。



公民館が発行している古代米情報紙

- ふゆみずたんぼを6haで実施し、環境に優しい農業を実施する農家が現れるなど新たな農業が展開。
- 地域住民に環境にやさしい農業への関心が高まり、農地周りの草刈りなどの保全管理活動に非農業者の参加が増加。

{ 91人(H26年度)⇒312人(H27年度) }



## 畦畔管理を兼ねた「シバザクラの里」で集落活性化

の み ひがしひろしま  
乃美エコクラブ（広島県東広島市）

- 活動地域である東広島市豊栄町乃美地区は、人口の約34%が65歳以上で、農作業に携わる者も高齢化により畦の草刈もままならない状態になっていた。
- 当組織の代表を中心として、(独)農研機構の難防除雑草の防除技術と広島県立農業技術センターの防草シートにシバザクラを組み合わせた技術を融合させ、草刈作業の不要化を試みた。特に平成19年度には、高さが16mもの法面へシバザクラを植栽し、法面の省力管理と景観形成を図った。
- 育苗・植栽技術講習会を開催し、当地域の活性化と他地域への技術の普及を進めている。
- 様々な団体と協働・連携し、田んぼの生き物調査や、地域に多数存在するため池を活用した新しいイベントの開催、特産物の開発等を計画しており、さらなる集落活性化に向け前進している。

### 【地区概要】

- ・取組面積 65ha  
(田60ha、畑2ha、草地2ha)
- ・資源量 開水路24.3km、農道14.6km、  
ため池30箇所
- ・主な構成員  
農業者、県立高校、自治協議会、  
シバザクラ愛好会 等
- ・交付金 約5百万円(H29)

農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化)

### 防草シートを使った畦の 管理作業の負担軽減



- マルチ被覆とシバザクラを組み合わせた大規模畦畔管理技術と、難防除雑草を根まで枯らす技術をあわせた技術をもって施工。定植したシバザクラが法面全面を覆うまで約3年かかるが、覆い茂った後は法面を草刈する必要がなくなる。また、法面を被覆することにより用水路への土砂の流入が少なくなり、用水路管理の省力化が図れる。

シバザクラ植栽面積1.6ha  
(うちH19年度の農地・水・環境保  
全向上対策で施工14a)



### 被覆植物(シバザクラ)による 地域の活性化



- シバザクラで敷き詰められた法面は、防草や景観美化の効果に加え、稲の虫害を抑制され、米の品質向上と減農薬栽培に繋がることが期待される。
- 植栽したシバザクラの花が満開となる4月頃に、美しく咲き誇る景観を目指して、地域外から見学に訪れる人が増加し、開花期(約30日間)には、延べ1万人以上が来訪すること。
- “シバザクラの里”として広くPRするとともに、シバザクラの品種見本園の開設や栽培技術相談も受け付けている。



### 活動を通じて 更に次のステップへ



- 住民自治協議会(自治振興組織)や農業法人と協働し、ため池の汚泥・底樋の調査や草刈を実施。
- この他、多様な主体が参画して、地域活性化や環境保全のための様々なイベントを開催している。

- ・自主施工による水路の補修等
- ・田んぼの生き物調査、水質調査
- ・湿田に開渠排水路を設け水田貯留機能を増進
- ・大学、高校と協働し外来雑草の調査・防止対策

- さらに、特産物の開発など、地域住民の繋がりと都市住民との交流を深めていく計画。







# 直営施工による農道、水路の補修

さなだ よしかちょう  
真田地区資源保全組合（島根県吉賀町）

- 本地区は、国土交通省の水質調査で全国一となった高津川の右岸の平坦な農地を対象に活動を展開。
- 地区内の農道及び水路は、老朽化が進行し、通行障害や漏水等が発生している状況。このため、施設の補修等に当たっては、緊急性の高い箇所を優先するなど計画的に実施。
- 直営施工に取り組むことによって、地域の問題は自分たちで解決することができることを実感。

## 【地区概要】

- ・取組面積 42ha（田34ha、畑8ha）
- ・資源量 開水路16.5km、農道8.1km
- ・主な構成員  
農業者、自治会、青年会、壮年会
- ・交付金 約3百万円（H29）

（ 農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化） ）

## 地域の現状



清流に恵まれた土地



改修してから20年程度だが、地盤が悪いため、水路底と側壁の隙間が生じ漏水が発生している。



狭く未舗装の農道と老朽化によって壊れている石積水路

## 直営施工の実施



廃アスファルトで農道舗装。



70才以上の石積経験がある人を中心に水路を改修。今後は、こうした技術を若い世代に伝承することとしている。



地域協議会の技術研修会で紹介された、ガラス繊維モルタルでの補修を実施。漏水がなくなる。

## 活動の効果

- ・ 直営施工により、地域の構成員がもつ技能を活用し、水路・農道など施設の長寿命化を図ることができた。



完成した練り石積



# 広域エリア(旧村単位)で活動に取り組む事例

農地・水・環境保全組織窪田ふるさと会管理協定(島根県出雲市)

- 約8割が急峻な山林である出雲市旧窪田村地区では、農地の荒廃は集落の崩壊につながるとの認識から、多くの集落が1集落単位で中山間地域等直接支払制度を活用して、集落内の農用地の保全活動等に取り組んでいる。
- 農地・水・環境保全向上対策への取組開始に当たり、推進本部をコミュニティーセンターに置き、7つの振興協議会を運営母体に広域エリア(旧村単位)で「窪田ふるさと会」を設立。水路等の施設の機能維持活動等を地区全体で優先度の高い活動から重点的に取り組むなど効率的な活動を実施。

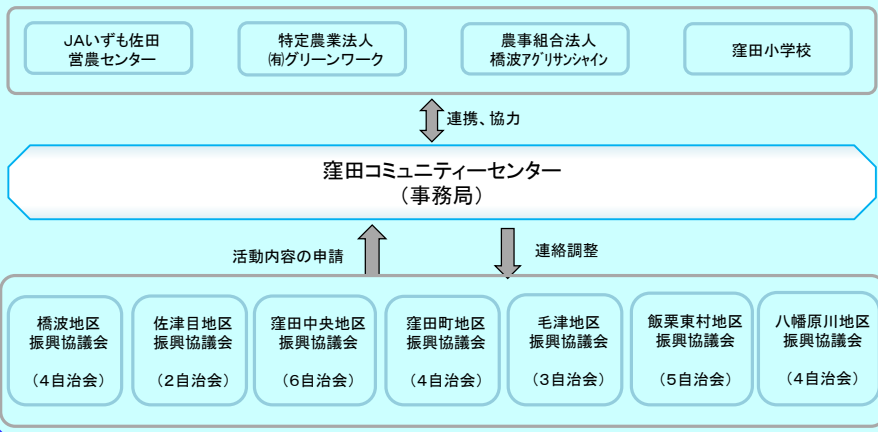
## 組織の概要

### ①広域エリアで組織化した経緯

- ・平成19年度の本対策の導入に当たり、島根県出雲市の旧窪田村地区の集落間において、どの単位で組織化するか議論。集落によっては事務手続きの困難さから、本対策には取り組まない意向。
- ・市の担当者が自主的な地域運営と地域の活性化の観点から、本対策の導入と広域エリアでの組織の設立を誘導。旧窪田村全域を対象とする「窪田ふるさと会」を設立。

### ②組織の構成と役割

- ・「窪田ふるさと会」は、窪田コミュニティーセンターに事務局を置き、旧佐田町のコミュニティーブロック整備事業により29自治会を7つにまとめた振興協議会、2つの農業法人を運営母体に地域のJA、小学校、農業者から構成。旧窪田村全域を対象として、484世帯が7つの振興協議会の会員として本対策に参画。



## 活動の概要

### 水路等施設の機能維持活動について

- ・水路、農道の補修等、施設の機能維持に資する活動については、7つの振興協議会が地区内集落のニーズを集約し、補修が必要な施設を事務局に申請。
- ・事務局は各振興協議会からの申請内容を老朽度、利用度、危険性、実施可能性などの観点から重要度を点数化。
- ・各振興協議会会長等から成る役員が現地確認を行い、振興協議会間で共通の視点に立った優先度の確認と合意形成を図り、地区全体で重要度の高いものから取り組みを実施。

## 広域エリアで組織化したことによる効果

- ・事務的な作業面、技術的な面で集落単位では人材の確保が困難であったが、広域化を図ることにより、各分野で何かしら得意な人がいるなど、人材が確保された。
- ・活動区域を広域化することにより、ある程度まとまった額の交付金を、地区全体で優先度の高い活動に効果的に活用できた。



農道のコンクリート舗装



配水パイプの設置



開水路の水漏箇所を目地詰め



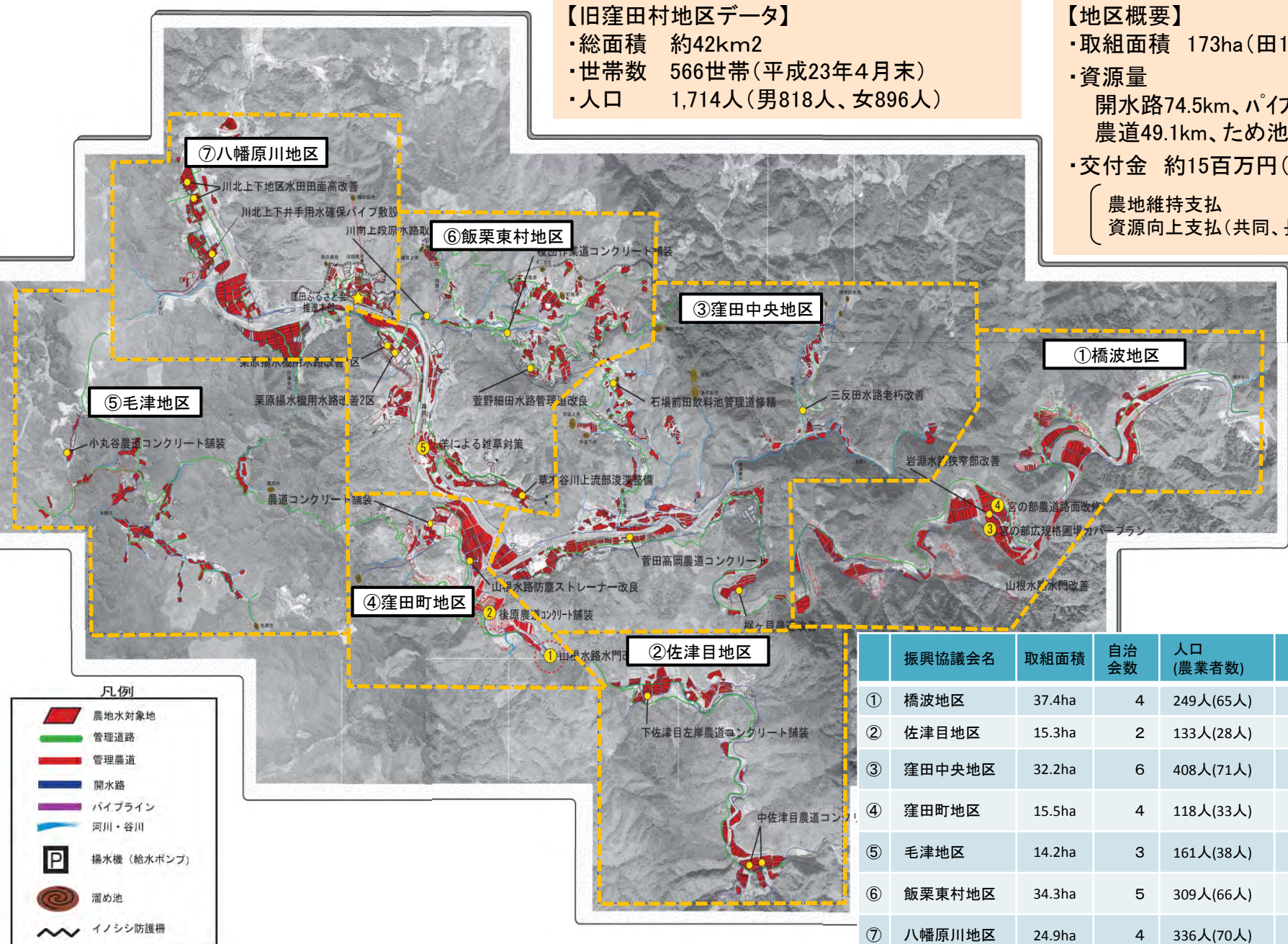
(参考)農地・水・環境保全組織窪田ふるさと会管理協定実施位置図 (島根県出雲市旧窪田村地区)

【旧窪田村地区データ】

- ・総面積 約42km<sup>2</sup>
- ・世帯数 566世帯(平成23年4月末)
- ・人口 1,714人(男818人、女896人)

【地区概要】

- ・取組面積 173ha(田164ha、畑9ha)
- ・資源量  
開水路74.5km、パイプライン4.5km、  
農道49.1km、ため池25箇所
- ・交付金 約15百万円(H29)
- 〔 農地維持支払  
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕



	振興協議会名	取組面積	自治会数	人口 (農業者数)	資源量
①	橋波地区	37.4ha	4	249人(65人)	開水路16km、農道8km
②	佐津目地区	15.3ha	2	133人(28人)	開水路7km、農道2km
③	窪田中央地区	32.2ha	6	408人(71人)	開水路19km、農道10km、 ため池9箇所
④	窪田町地区	15.5ha	4	118人(33人)	開水路4km、パイプライン1km、 農道2km、ため池1箇所
⑤	毛津地区	14.2ha	3	161人(38人)	開水路2km、パイプライン0.5km、 農道10km、ため池1箇所
⑥	飯栗東村地区	34.3ha	5	309人(66人)	開水路11km、パイプライン3km、 農道11km、ため池8箇所
⑦	八幡原川地区	24.9ha	4	336人(70人)	開水路11km、農道6km、 ため池2箇所





# 子供達との農業体験等を通じた活動の展開

あわたがわ

粟田川流域農地・水・環境を守る会（広島県庄原市）

しょうばらし

- 本地域では、平成19年から活動組織を立ち上げ、アイガモ農法による稲作体験、広島市や大阪府の子どもたちも交えた田植え交流会や収穫祭、小学校低学年・保育園を対象としたサツマイモの苗植え・芋掘り体験等、子どもを巻き込んだ様々な取組を実施している。
- 今後も本取組を通じて、地域の伝統的な農業を伝承していくとともに、地域コミュニティの活性化を図っていくこととしている。

## 【地区概要】

- ・取組面積 126ha（田126ha）
- ・資源量 開水路20.6km、農道6.0km
- ・主な構成員  
農業者、非農業者、PTA、その他7団体
- ・交付金 約8百万円（H29）  
〔 農地維持支払  
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

## 取組の経緯

- ・アイガモ農法に取り組む藤本農園は、小学校での農業体験や学校給食へのアイガモ米等の提供等の取組を実施。
- ・地域の環境を集落全体で守っていききたいとの思いから、平成19年に粟田川流域農地・水・環境を守る会を設立。



水路泥上げの様子

## 子どもが参画する地域活動

### 地域の伝統農業・アイガモ農法体験



地域の子ども会や老人会に加え、広島市や大阪府の子どもたちも参加し、約400人規模のアイガモ農法による田植え交流会を開催。地元のお年寄りが太鼓をたたき、田植え歌を歌う中、子どもたちが、手植えやアイガモの放鳥を行った。



収穫祭では、稲刈り、はぜ干し等の体験を実施。収穫した米の一部は、子どもたちが自ら支援先を探し、東日本大震災の被災地へ送っている。



地域住民を招いた学習発表会を開催。アイガモ農法を題材として、子どもたちが演劇を実施。（平成24年11月）



遊休農地を活用し、地元小学校1～2年生と保育園児を対象に、サツマイモの苗植え・芋掘り体験を実施。



これらの体験を通して子ども達が自発的にアイガモの世話を始める。（アイガモの小屋は学校のすぐ隣）

## 活動の効果

- ・子どもが農作業に参加することに反対する親もいたが、この取組が地元テレビで放送されたことをきっかけに、徐々に理解が得られるようになった。
- ・田植え交流会や収穫祭への参加者が増えている。
- ・今後も、本取組を通じて、伝統芸能を伝承するとともに、地域コミュニティの維持・発展を図っていきたい。